



平成 19 年度活動報告集

平成 20 年 4 月

挨拶

東海構造研究グループ(略称 SGST)は、中部地区で構造工学に関する約 10 の大学、高専等の教育機関と約 13 の法人会員（官公署、企業）および構造に関する業務に携わる約 80 名の個人会員から構成される団体です。昭和 53 年に当時名古屋大学教授の福本嘯士先生他により創設され、以後組織改正を経て、平成元年 4 月から新規約が作成され今日に至っています。研究活動の主な目的は、研究発表などの種々の活動を通じて、立場を異にする会員間の相互理解と親睦を深めることにあります。定期研究会は隔月で開催され、また重要度の高いテーマについては有志によるグループを結成し、2 年間の研究委員会活動を行って、重点的に調査研究を行っています。2001 年から土木学会の継続教育制度が始まり、当研究会におけるテーマについても毎年、申請し、受理されています。これにより、会員の皆様の土木技術者としての資質向上の証明に役立てられています。

今年度は、定期研究会として、**第 1 回**「鋼床版の疲労と対策に関する取り組み」：（独）土木研究所 主席研究員 村越 潤氏、**第 2 回**「FRP 材料を用いた鋼構造物の補修・補強に関する最近の話題」首都大学東京 助教 中村一史氏、**第 3 回**「CFRP 板接着による鋼構造物の補修・補強」：名古屋大学大学院 助教 石川敏之氏、**第 4 回**「光学的手法による建設構造物の劣化・変状メカニズムの診断法について」：長崎大学 教授 松田 浩氏、**第 5 回**「橋を守る」：国土交通省国土技術政策総合研究所 玉越 隆史氏、**第 6 回**「新潟県中越沖地震から学ぶ原子力発電所の耐震安全性の課題」：愛知工業大学地域防災センター客員教授 入倉 孝次郎氏を開催しました。この一年は、米国ミネアポリス市のミシシッピー川に架かる高速道路（I-35W）のトラス橋崩落をはじめ、国内外で橋梁の損傷事故が相次ぎ発生し、社会問題としてクローズアップされました。当研究会では、現場見学会として、三重県内で発生した二つの現場：H形鋼トラスの斜材が破断した国道23号の木曾川大橋（1963年建設）、疲労と思われる亀裂が見つかった国道25号（名阪国道）の神武川橋（1965年建設）を視察しました。何れの橋も維持管理が行き届かなかったために劣化・損傷に至ったともであり、普段の点検・補修が重要であることを再認識させられました。

我々は過去に構造物の地震被害などの自然現象によって破壊した事例を数多くみてきました。今回も貴重な実物大実験が行われたわけであり、大事故のあとでは、必ず新しい構造技術分野が展開され、著しい進展が見られます。重要なことは、問題が過去にあるのではなく、科学と技術の方法が真に確立されているかのように見える現在も、思いも及ばなかったような事故が起こることを念頭におくべきではなからうか。

最後に、会員の訃報として、事口寿男氏（大同工業大学）および櫛田賢一氏（帝国建設コンサルタント）のご逝去をお伝えし、ご冥福をお祈りします。また、今年度の活動に際しご尽力をいただいた幹事の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 19 年度 SGST 代表
名城大学 久保全弘

東海構造研究グループ

Study Group of Structures in Tokai

2008年3月

東海構造研究グループとは

東海構造研究グループ（略称 S G S T）は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関する諸団体（官公署、企業）および構造に関する業務あるいは研究に携わる個人とから構成されています。

このグループによる研究会は昭和53年に創設され、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。これまでに種々の研究結果を挙げており、また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしています。

沿革

- 昭和53年 4月 東海鋼構造研究グループ創設。代表 福本 昶士
主として鋼構造部材の抵抗強度の信頼性評価が研究されました。
- 昭和59年 8月 東海構造研究グループと改称し、構造全般を扱うようにし、官公庁、企業、教育機関から多くの新規の会員入会がありました。
- 昭和61年11月 代表 長谷部 宣男
- 平成 元年 4月 組織規約が作成され、活動範囲を広げました。
- 平成 3年 4月 代表 宇佐美 勉
- 平成 7年 4月 代表 梶川 康男
- 平成 9年 4月 代表 山田 健太郎
- 平成13年 4月 代表 塩見 弘幸
- 平成15年 4月 代表 事口 寿男
- 平成17年 4月 代表 青木 徹彦
- 平成19年 4月 代表 久保 全弘

平成19年度 東海構造研究グループ代表および事務局

代表 久保 全弘 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501
名城大学理工学部 建設システム工学科
TEL 052-838-2351 内 5187
FAX 052-832-1178
E-Mail kubo@ccmfs.meijo-u.ac.jp

事務局 山田 忠信 〒475-0831 愛知県半田市 11号地 20番地
(幹事長) 日本車輛製造(株) 鉄構本部 製造部
TEL 0569-22-7511
FAX 0569-22-7577
E-Mail YAMADAT@cm.n-sharyo.co.jp

高橋 昌利 〒475-0831 愛知県半田市 11号地 20番地
(事務担当) 日本車輛製造(株) 鉄構本部 設計部 橋梁設計課
TEL 0569-22-7603
FAX 0569-22-7674
E-Mail MA-TAKAHASHI@cm.n-sharyo.co.jp

会の運営

会の運営は主として会員の納める会費があげられています。会費は会員の区分に応じて次のように決められています。

正会員	年額	2,000 円
賛助会員	年額	1,000 円
特別会員		
第 1 種	年額	30,000 円
第 2 種	免除	
名誉会員	免除	

特別会員の第 1 種と第 2 種については、研究会などへの行事参加への区別は全くありません。特別な事情により会費納入が無理な団体に対して、第 2 種は設けられていますが、現在はできるだけ第 1 種へ入会していただくようお願いしています。

東海構造研究グループの活動

研究調査

研究会活動の中心となるもので、構造に関する種々の分野について、研究および調査を行います。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。また、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討論が行われています。平成 15 年度より、定期研究会は(社)土木学会継続教育プログラム(CPD)の認定を受けております。

現場見学会

会員全体が参加する行事として、不定期に開催されています。

構造物研究および指導の委託

構造物に関する研究の委託および指導を受け入れています。委託の内容によっては委員会を作り、検討を行っています。

出版

本会の成果として、「鋼構造部材の抵抗強度の評価と信頼設計への適用」(1980)および「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」(1994)を「橋梁と基礎」にそれぞれ 2 回に分けて発表しています。また、研究会での資料をまとめて「活動報告資料集」を毎年発刊しています。

講演会、講習会

構造に関する講演会および講習会の主催、共催または協賛を行っています。

協賛例：平成 2 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物の設計にかかわる最近の話題」

平成 4 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物設計における最近の話題

- 景観設計とライフライン構造物の設計および管理 - 」

平成 6 年度 土木学会中部支部技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」

平成 7 年度 土木学会中部支部技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計

- 橋梁構造物 - 」

共催例：平成 17 年度 橋梁技術発表会 「 - 橋梁技術の最前線 - 」

主催：(社)日本橋梁建設協会

平成 18 年度 構造工学フロンティア

主催：「構造工学フロンティア」実行委員会 (名古屋大学)

組織と運営

会員

東海構造研究グループは、以下に示す会員によって構成されています。会員には正会員、賛助会員、特別会員および名誉会員の4種があります。

会員区分	資 格
正 会 員	本会の各種事業の主体となって活動する次の各号に該当する者 (1) 構造物に関する業務に従事する者 (2) 構造物に関する学職経験者 (3) 前号に準ずる者
賛助会員	正会員の研究活動に参加しまたは支援する正会員の経験者およびこれに準ずる者
特別会員	本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する会社および団体、特別会員は第1種と第2種に分かれ、第2種の会員は会費納入の義務を負わない。
名誉会員	本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本会の総会において推挙された者

総会および定期研究会

重要な議決事項は総会で審議されます。総会は年1回開かれることになっています。定期研究会は、隔月で開催されています。

役員その他

本研究グループでは代表、幹事長、幹事および会計幹事の役員をおき、会の運営にあたっています。現在の役員は次の通りです。

代表	久保 全弘	名城大学 理工学部 建設システム工学科
幹事長	山田 忠信	日本車輛製造(株) 鉄構本部 製造部
事務担当	高橋 昌利	日本車輛製造(株) 鉄構本部 設計部 橋梁設計課
会計担当	鷲見 英吾	八千代エンジニアリング 名古屋支店 技術第1部
企画担当	古田土 功	トピー工業株式会社 鉄構事業部 技術部
研究会担当	永田 和寿	名古屋工業大学 工学部 都市社会工学科
	葛 漢彬	名古屋大学 大学院 工学研究科
	小塩 達也	名城大学 理工学部 環境創造学科
	忠 和男	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
	酒造 敏廣	大同工業大学 工学部 都市環境デザイン学科
	鈴木 森晶	愛知工業大学 工学部 都市環境学科
HP 担当	加藤 幸男	中日本建設コンサルタント 設計本部第3部